

1 学校教育目標
学び・働き・支え合い(教児ともに)

2 学校経営ビジョン
<p>①4プロジェクトの運営を軸に、6年間のスパンで「人としての基礎づくり」を目指す。</p> <p>②力量を高めようとする意欲を持ち続ける教師、自信を持ち自分を大切に育てる児童を育てる。</p> <p>③家庭との連携を軸にしたあいさつの励行や基本的な生活・学習習慣の育成を図る。</p> <p>④地域・保護者・学校が一体となった危機管理体制を確立する。</p> <p>⑤ふるさと「有田」を愛する子どもを育てる地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>⑥小中連携の推進</p>

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>①4プロジェクトと2つの基盤組織の創意工夫による学校運営と組織の活性化</p> <p>②教児ともに「学び・働き・支え合う」学校・学級づくり</p> <p>③あいさつや基本的な生活・学習習慣の育成 (有田っ子スタイルの共通理解と推進)</p> <p>④地域・保護者・学校が一体となった危機管理体制の推進</p> <p>⑤ふるさと有田を愛する子どもを育てる地域に根ざした学校作り</p>	<p>・学校運営に関しては、企画委員会を年間計画の中に位置づける等し、内容の共通理解を図っていききたい。</p> <p>・各家庭に多様な情報を発信し、教育活動や危機管理への対応を確実に周知してもらおう。実態に即した危機応変の対応ができるよう、様々な避難訓練を随時、実施していく。</p> <p>・教育活動に関しては、本年度も、体力テスト(5年)の結果、全国平均を下回っている種目が多い。教育課程の確実な履修とともに準備運動やトレーニングとして授業の中に確実に仕組むよう、単元構成を再考していく必要がある。</p> <p>・学習状況調査やCRTの結果分析を踏まえ、国語(書く、聞く)の確かな学力の定着に向けて全力を傾注したい。そのためには、</p> <p>①研究発表会や教育センター受講への積極的な参加等を通して、子どもが主体の分かる授業の創造に努める。</p> <p>②校内研究の中で、「書く・聞く」活動を軸に研究を進めたい。</p> <p>③有田っ子スタイルの充実(強調週間の設置)及び言語環境を整える。</p> <p>④読書指導の充実・読書冊数だけでなく、紹介文や選定図書、お勧めの本などに幅広く接することのできる機会を提供する。</p> <p>・次年度は、今年度の取り組みに加え「有田っ子スタイル」の共通理解および家庭との連携を深めることにより生活習慣・学習習慣の定着に力を注いでいきたい。</p> <p>・この3年間「学び・働き・支え合い(教児ともに)」を学校目標に、教職員・保護者・地域が一体となって学校運営を推進してきた。いつも誠意ある協力と温かい見守りの姿勢で学校運営を支えていただいていることに感謝している。今年度の学校評価を細かく分析し、課題を明確にしなが、子どもを中心にすえ地域と手をつなぎながら、更なる学校づくりの充実に向け、全職員で取り組んでいきたい。</p>

5 総括表
-------

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策
学校運営	●学校経営方針	◎本年度の学校重点目標の周知  ◎企画会・学校運営委員会の充実(月1回) ◎各種委員会の活性化	・教職員, 児童, 保護者への学校目標の周知率95%とする。  ・迅速かつ実効ある委員会の開催。	B  ・周知率93%でおおむね達成できた。 ・運営委員会を行ったが, 時間的な課題もあり今後工夫が必要。	①学校だより(月2回発行), 職員会, PTA総会, 役員会, 懇談会, HP等での周知徹底。 ②全校朝会での具体的な説明。また, 掲示等で機会を捉えた周知。 ③内容を具体的に検討し, 共通理解を図る委員会を計画的に開催。
	○教職員の資質の向上	◎目標達成に向けた自己評価と改善	・各部会における担当分掌の深化, 充実。 ・教育センターへの参加率90%とする ・危機管理意識の向上 ・実践的な危機管理研修会と実効ある常時指導	A  ・教育センター参加100%。 ・場に応じた速やかな生活指導, 全職員の協力した指導により大きな事故はなかったが, 子どもへの定着が課題である。 ・通知文などは, 速やかに職員への浸透が図れた。 ・全員による研究授業ができた。	①細やかなヒアリング(月1回)。 ②研究授業(年1回・国語), TT担当。 ③教育センター・研究会への積極的参加。 ④夏季休業中の校内研修の実施。 ⑤避難訓練 年3回, 随時
	○危機管理体制の充実と危機意識の向上	◎危機管理体制の整備  ◎校内外事故の防止	・子どもの安全を, 第一に考えた危機への対応。 ・はなまる連絡帳での情報発信。	B  ・防犯ふれあい隊との温かな連携が取れた。 ・げんきづくりプロジェクトを中心に子どもたちの安全には全員で取り組めた。さらに児童への指導の徹底が必要である。	①危機管理マニュアル・危険箇所マップの見直し。 ②職員の危機管理研修会(随時・夏休中1回)。 ③ヒヤリハットの法則に基づいた危機意識の持続と月1回の安全点検の実施。 ④週1回の安全点検(管理職, 主事)
教育活動	●学力の向上 (まなびづくり)	◎一人一人の確かな学力の定着・読む, 書く, 計算を中心とした基礎基本の徹底	・年間計画に基づく習熟度別少人数, TTの実施  ・確かな読みの指導と白磁タイムの活性化	・算数科を中心に3年～6年において単元の特性に応じ効果的に実施できた。 ・授業研究, 白磁タイムは, 各学年計画に基づいて実施できた。 ・「有田っ子スタイル」は定着率	①年間計画に基づいた習熟度別学習の推進。 ②基礎学力の定着が十分でない児童への個別計画による対応指導。 ③校内研究(国語)の実践的研究

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・有田っ子スタイルの定着（定着率80%を目指す）</li> <li>・読書指導の充実</li> </ul>	<p>85%以上の項目は、学校編も家庭編も5割程度でまだ不十分である。</p> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書指導の全校的な取り組みとして「読まんばグランプリ」を年2回実施し、児童の意識づけを図ることができた。</li> </ul>	<p>の取り組み（全員の研究授業と事前研での模擬授業の実践）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④国語の基礎学力を培う白磁タイムの充実。</li> <li>⑤視写タイムで各学年設定目標字数の達成者率85%。</li> <li>⑥「有田っ子スタイル」の共通理解と確実な指導および強化月間の設定。</li> <li>⑦夏季休業中の個別指導</li> </ul>
●心の教育（こころづくり）	◎配慮を必要とする児童への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育と教育相談体制のリンクと充実。</li> <li>・校内研修を通じた具体的支援策の共通理解。</li> <li>・校外の専門機関との連携。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じて、教育相談、SSW、まなびの教室、なかよし学級、養護学校等と連携して対応した。</li> </ul> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①担任、教育相談担当、コーディネーター等による児童の困り感の把握。</li> <li>②個別計画の作成と評価（学期1回）。</li> <li>③職朝研修での共通理解（週1）。</li> <li>④担任と教育相談担当・コーディネーターとの連絡強化必要に応じたケース会議の実施。</li> <li>⑤SC、SSW、関係機関との連携を中心にした相談体制の確立。</li> <li>⑥「学びの教室」（週2回）との連携と情報の共有化。</li> <li>⑦不登校傾向児への支援。ケース会議の必要性。</li> <li>⑧事例研を中心とした校内研修の実施（夏季休業中）。</li> </ul>
●健康・体づくり（すこやかづくり）	◎たくましく生きるための健康や体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびタイム、ジョギングタイムの設定による啓発活動の推進。</li> <li>・なわとびや持久走などで学年ごとに目標回数や目標タイムを設定し、90%以上の児童がクリアすることを目指す。</li> <li>・朝食定着率100%を目指すと共に、基本的な生活習慣の確立のため、給食便り、保健便りでの啓蒙と、各学年1回は学級での指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびタイム、ジョギングタイムともに今年は1ヵ月間行い、全校放送で呼び掛けたり、職員も参加することによって十分取り組めた。</li> <li>・目標達成は学級により差異があるが、常に目標を意識して運動に取り組めた。80%以上の児童がクリアできた。</li> <li>・朝食定着率100%を目指し、学校を挙げて啓発した。定着率95%以上であり、満足できる結果を挙げたが、さらに100%を目指したい。</li> </ul> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①安全面と意欲面および体力向上を重視した運動会・持久走大会等体育的行事への取り組み。</li> <li>②養護教諭を中心とした健康・保健指導の実施。</li> <li>③衛生管理と食指導、誕生給食会の実施（毎月）。</li> <li>④食生活学習教材を活用した食に関する授業の実施。</li> <li>⑤全学年保健に関する授業の実施。</li> </ul>

<p>○自主性・創造性・責任感の育成。 (なかまづくり)</p>	<p>◎集会行事・委員会活動の活性化</p>	<p>・児童会活動の活性化。  ・各行事の創意工夫。 ・人権・同和教育, 道徳教育の推進。</p>	<p>B</p> <p>・集会については, 事前準備練習をして臨ませることができた。代表委員会も早めに行い, 行事に向けて計画的に取り組んでもらうことができた。 ・集会行事については, 各学級の協力で工夫した発表等できていた。委員会活動は, 子どもの人数も少なく当番活動で手いっぱいのところがある。自主的活動まで行わせる余裕がなかった。 ・人権週間の取り組みとして, 全校での公開授業を行った。 ・年間計画を「心のノート」とかみ合わせ, 取り組めた。</p>	<p>①ふれあいタイム, クラブ活動, 各委員会の企画立案など意欲的活動を促す取り組みと評価。 ②1年生を迎える会, 有小ふれあいデー, 6年生を送る会など年6回の大集会での創意工夫ある運営。 ③代表委員会(年4回), 児童集会(年6回)の企画立案・準備・練習・運営のタイムテーブル作成, 見通しを持った取り組み。 ④人権週間における全校授業公開。道徳, 特活など…10月7日</p>
<p>○生活管理と安全教育の推進 (げんきづくり)</p>	<p>◎災害時の避難と日常生活の危険から身を守る</p>	<p>・職員周知と体制づくり。  ・学校内外の児童の安全確保。  ・あいさつ指導・生活目標の徹底。  ・児童の生活習慣の育成。</p>	<p>B</p> <p>・年間を通して「元気のよい挨拶」「正しい廊下歩行」「ていねいな掃除」の3本柱で取り組み, 徹底した指導をしたが, 十分な成果を挙げられなかった面もあった。 ・集団下校の際, 生徒指導の話をし, 子どもの安全教育の充実が図れた。 ・廊下歩行の徹底と掃除指導が十分にできなかった。</p>	<p>①問題行動の早期発見と早期対応や解決に向けた体制づくり。 ② 校内生活の安全指導。 ・「廊下歩行」や安全な設備の使い方等の計画的指導と毎月の反省。 ・児童一人一人の危機管理意識の育成。 ③校外の安全指導 ・関係機関及び防犯ふれ合い隊との温かな連携と情報交換。 ④明るいあいさつの指導の継続(通年)。 ・全校集会, 集団下校時の継続指導。 ⑤生活月目標に沿った生活指導。 ⑥清掃指導の充実。 ・全職員に担当箇所を割り当てる。 ⑦全校清掃活動(集みゅーデー)の計画的な実施。 ⑧避難訓練の実施(学期に1回)</p>

	○開かれた学校づくり	◎有田を愛する心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とのふれあいを重視した場の設定。</li> <li>・体験学習の実施。</li> <li>・英語活動の推進。</li> <li>・保護者や地域との連携。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価3.9で高い評価が得られた。</li> <li>・地域人材による体験学習や交流会が充実し、学校行事がスムーズにしている。</li> <li>・ふれあい隊、やきもの教室、大掃除でのピカピカ先生等、地域の方の支えが実感できている。</li> <li>・ALTは計画通り授業が行えた。打ち合わせの時間が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域、保護者とともに学ぶふれあい学習会(11月9日)。</li> <li>②体験学習「やきもの教室」を通じた地域人材との交流(全学年)。</li> <li>③縦割り班活動を軸にした1泊2日の宿泊学習。(黒髪少年自然の家)</li> <li>④地域ボランティアとの連携。</li> <li>⑤年間計画に基づく系統的な英語活動。</li> <li>⑥ALTとの連携と英語活動の教材づくり。</li> <li>⑧適正な学校評価の実施と結果の公表。</li> <li>⑨PTA活動への参加(一人一役)。</li> <li>⑩HPを通しての情報発信(週1回以上)</li> </ul>
特定課題	●小学校低学年の学習環境の充実	◎家庭との連携を密にした基本的な生活・学習習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭への啓発活動の推進。</li> <li>・学校での学習・生活習慣の徹底。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級だよりや日々の連絡帳等を通して、家庭との連携を十分に果たすことができた。</li> <li>・「有田っ子スタイル」を意識させることにより、良い生活・学習習慣が徹底浸透していった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校・学年・学級・保健室等、たよりによる家庭への啓発(早ね・早起き・朝ごはん)。</li> <li>②強調週間の点検活動・家庭生活表の点検と評価。</li> <li>③年間指導計画(チャイム席、発表の仕方、道具の準備等)に基づいた指導の共通理解と浸透。</li> <li>④保護者説明と意見交換(学期に1回)。</li> </ul>

## 6 総合評価

- ・全体としては、アンケート評価3.3で、おおむね良好である。
- ・学校運営に関してはおおむね良好。学校経営方針の周知率も93%と高かった。学校便りやメールでの情報発信により理解が得られたものと思われる。企画委員会・運営委員会の充実という面で、運営委員会を実施したが、さらに検討が必要である。
- ・教育活動も各評価項目でおおむね良好である。今年度課題としていた国語における確かな学力の定着は、全職員の研究授業の実施、白磁タイム(視写)に力を注いだ。各種学力検査の結果からいえば、まだまだであった。さらに、取り組みにおける工夫改善の必要がでてきた。
- ・健康体づくりでは、具体的目標はおおむね達成できたものの、今年度も体力テストでは、5年女子6年男子がやや全国平均を下回った。共通理解を図り、PTAとも課題を共有化し、食まで含めた手立てを工夫していく必要がある。
- ・特定課題においては、「有田っ子スタイル」をもとに良い学校生活・学習習慣がおおむね浸透している。

## 7 次年度への課題・改善策

- ・学校運営に関しては、各取り組みを今後も継続していき、内容の共通理解を図っていきたい。
- ・各家庭に多様な情報を発信し、教育活動や危機管理への対応を確実に周知してもらう。実態に即した臨機応変の対応ができるよう、様々な避難訓練を随時、実施していく。
- ・教育活動に関しては、学校全体での体育的(体力を高める)活動を増やしていかなければならない。教育課程の確実な履修とともに体力向上の計画的実施に取り組む必要がある。
- ・学習状況調査やCRTの結果分析を踏まえ、国語の確かな学力の定着に向けて全力を傾注したい。そのためには、
  - ①研究発表会や教育センター受講への積極的な参加等を通して、子どもが分かる授業の創造に努める。
  - ②さらにICTを取り入れた分かりやすい授業づくりに取り組みたい。
  - ③校内研究の中で学びあい活動を軸に研究を進めたい。
  - ④有田っ子スタイルの充実(強調週間の設置)及び言語環境を整える。
  - ⑤読書指導の充実・読書冊数だけでなく、説明文や選定図書、教師のお勧めの本などにも幅広く接することのできる機会を提供する。
- ・次年度は、今年度の取り組みに加え「有田っ子スタイル」の共通理解および家庭との連携を深めることにより生活習慣・学習習慣の定着にさらに力を注いでいく